

RACE REPORT




 Round.04 **SUZUKA**
第4戦 鈴鹿サーキット

2026年5月23日(土)

予選・決勝

天候：曇り／雨 路面：ドライ／ウエット

#38 阪口 晴南

予選 4番手 決勝：12位

#39 大湯 都史樹

予選 9番手 決勝：6位

2026年の全日本スーパーフォーミュラ選手権は、第3戦オートポリスから約1ヶ月弱のインターバルで第4戦／第5戦を迎えた。舞台は三重県の鈴鹿サーキットだ。

この鈴鹿サーキットは開幕前のテストでも使われているコースだが、その時とは気温、路面温度も大きく異なる。

QUALIFY 公式予選

迎えた5月23日(土)の鈴鹿サーキットは、早朝から細かい粒の雨が舞う曇り空。ただ、午前9時15分から行われた第4戦の公式予選は、ウエット宣言は出されずドライコンディションで始まった。

まずQ1のA組に出走したのは大湯。前日の専有走行では、最後のアタックシミュレーションでスピンを喫してしまったのは痛手だったが、午前の走行では4番手につけるなど「パフォーマンスとポテンシャルが戦える位置にいると感じています」と手ごたえを感じて臨んだ予選だった。

ただ、この日の大湯のフィーリングは前日とは違って変わってしまひとつ。大湯自身が「たまたま」と振り返る1分38秒362というベストタイムで5番手につけ、Q2進出を果たすことができた。

続くQ1のB組に出走したのは阪口。専有走行では午前、午後ともアタックをしっかりと決めることができず順位は伴っていなかったが、こちらも手ごたえを感じての予選だった。「速さは秘めているように感じますが、鈴鹿特有のものなのか繋がらない」という阪口は、その課題解決に取り組み予選に臨んだが、この対策が功を奏し好感触を得ており、1分37秒698を記録。3番手でQ2進出を果たした。

また第3戦オートポリスは決勝レースが悪天候のため順延となったが、この第4戦／第5戦も雨が絡む天気予報が出ていた。どんな状況でもベストを尽くすべく、SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは、晴天となった5月22(金)の専有走行から週末への準備を進めた。

5月23日(土) 9:15～10:00 天候：曇り 路面：ドライ
ベストタイム #38 阪口晴南 1'37.617 / #39 大湯都史樹 1'38.267

午前9時50分から行われたQ2では、阪口は一度アウト～インを行った一方、大湯はピットでステイ。ニュータイヤを履きコースインと、2台の戦略を分けていった。

チェッカーに向けてアタックを展開していくと、阪口はQ1からの好調を維持。Q2へのアジャストもうまくいき、1分37秒617で4番手と好位置につけてみせた。一方、大湯はタイムをまとめたものの、やはり速さに欠け1分38秒267で10番手。予選後、走路外走行の車両がおりひとつ繰り上がり、9番手で予選を終えた。



RACE

決勝レース

5月23日(土) 14:45~15:54 天候:曇り/雨 路面:ドライ/ウェット
ベストタイム #38 阪口晴南 1'41.245 (2L) / #39 大湯都史樹 1'41.244 (12L)

公式予選の後も、鈴鹿サーキットは心配された雨は降らず、やや風があり肌寒さはあるものの、午後2時45分から行われた決勝レースはドライで迎えた。気温20度/路面温度24度というコンディションのもと、1周のフォーメーションラップを経て第4戦の決勝の火ぶたが切って落とされた。

SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは、阪口が4番手からスタートを切ったが、ひとつ順位を落とし5番手につける。しかしオープニングラップのAstemoシケインで阪口は#64 佐藤蓮をオーバーテイクすると、3番手を走る#14 福住仁嶺の背後にピタリとつけていった。

一方、大湯も1周目の位置取りが良く、オープニングラップに9番手から6番手までポジションを上げてみせた。ただ、順位アップを果たしたものの、予選に続き感触が悪く、序盤からペースに苦しんでしまう。ストレートスピードも伸びず、2周目から毎周のようにオーバーテイクを許してしまうことに。無線からは大湯の悲痛な声が飛んだ。

そんな厳しい大湯の状況をなんとか打開すべく、SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGはピットウィンドウがオープンした8周終了時に大湯をすぐさまピットに呼び戻した。チームも素早い作業で大湯を送り出し、ピットイン直前に抜かれていた#22 松下信治を先行してみせた。

一方、阪口は前を走っていた#14 福住がピットインしたことから3番手に順位を上げ、2番手を走る#16 野尻智紀を追っていたが、阪口は14周目に好ペースで迫ってきた#50 野村勇斗の先行を許してしまった。

そんな展開のなか、チームは阪口のピットインのタイミングをうかがっていたが、19周目に130Rで12番手だった#9 野中誠太がクラッシュ。セーフティカーランとなった。阪口はこの機を逃さずピットインし、4番手につけた。

24周目、レースはリスタートを迎えるが、この直前に雨が強まりはじめてしまう。スリックでは走行が難しく感じるスリッピーな状況のなか、阪口の目の前で1台がクラッシュ。さらに1台がグラベルストップし再度セーフティカーが入った。

ここで、阪口は上位のライバル同様スリックでの走行は不可能と判断し、コンディションに合わせてピットインしウェットタイヤを履いた。一方、13番手だった大湯は大逆転を期し、スリックのままステアアウトするギャンブルに出た。

この作戦は功を奏し、29周目のリスタート時、雨は止み始めた。大湯にとっては表彰台のチャンスとなったが、ドライでの絶対的なペースが足りず、少しずつ順位を落としてしまい、6位でフィニッシュすることになった。またウェットタイヤに履き替えた阪口は、追いつけず12位でフィニッシュ。多くのライバル同様、SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGにとっても、天候に翻弄されるレースとなった。



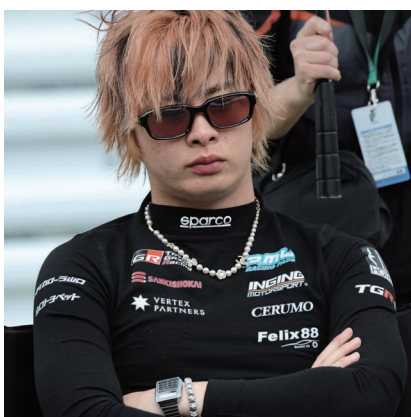
COMMENTS

ドライバー／監督コメント



38 阪口 晴南 SENA SAKAGUCHI

「スタートでは少し遅れたのですが、序盤からペースがあったと感じています。前を行く福住選手にプレッシャーをかけることができていました。ただ中盤、野村選手など抜きこんで速いクルマが何台かいたので、そこには至っていませんでした。戦略としては、セーフティカーのタイミングでピットインできましたが、結果として4番手で戻ることができ、タイヤのマイレージを考えるとさらに上が狙えたのですが、結果的に戦略を誤ってしまうことになりました。ただ、次に同じことになったときに『こちらの方が良かったね』とは言えない難しい判断でした。調子は良いですし、予選も安定して走れているので、明日の第5戦でまた頑張りたいと思います」



39 大湯 都史樹 TOSHIKI OYU

「とにかく今日は速さがなかったです。予選もたまたま運良くQ2にいくことができましたが、Q2ではきっちりまとめた中ではほぼ最下位でした。ポテンシャルがあったわけではなかったです。レースでは、スタート自体はあまり良くなかったのですが、場所取りが良くてうまくすり抜けることができたのですが、良かったのはそこまででした。抜いたもののストレートも遅く抜かれる一方ですし、速いと感じられるところがまったくなかったです。雨が降り出してステアアウトしたのは自分の判断でしたが、それがたまたまラッキーで良い方向にいきました。1周目と戦略以外、何も良いところがなかったです。金曜までは良かったので、明日はなんとかしたいですね」



立川 祐路 監督 YUJI TACHIKAWA

「すごく嫌なタイミングで、嫌な量で降った雨でした。阪口選手は調子も良く、上位につけていただけない、自分たちだけステアアウトする判断は難しかったです。表彰台を狙えただけに残念な結果になってしまいましたが、調子は良いので、明日の第5戦でしっかりと予選から優勝を狙える位置で戦ってほしいと思います。一方大湯選手については、かなりペースが苦しくポジションを下げるレースになってしまいましたが、順位が悪かっただけにステアアウトする戦略が採れました。ポイントに繋がったので良かったですが、あまりにもペースが悪かったので、クルマをしっかりと見直して、原因をしっかりと調べて明日に向けて備えたいです。応援ありがとうございました！」



RACE REPORT

RESULT リザルト

第4戦鈴鹿サーキット 決勝結果

Pos.	No.	Driver	Car	Engine	Laps	Total Time	Gap
1	37	S. フェネストラズ	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	1:05'12.423	
2	22	松下信治	DELIGHTWORKS SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	31	1:05'13.183	0.760
3	36	坪井翔	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	1:05'13.582	1.159
4	3	L. ブラウニング	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	1:05'19.062	6.639
5	53	C. プルツ	TEAM GOH SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	1:05'22.842	10.419
6	39	大湯都史樹	SANKI VERTEX CERUMOINGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	1:05'23.386	10.963
7	6	太田格之進	DOCOMO DANDELION M6Y SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	31	1:06'09.442	57.019
8	97	R. スタネック	ナビクル Buzz MK SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	1:06'13.411	1'00.988
9	19	Z. オサリバン	WECARS IMPUL with SDG SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	1:06'17.756	1'05.333
10	14	福住仁嶺	NTT docomo Business ROOKIE SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	1:06'18.303	1'05.880
11	5	牧野任祐	DOCOMO DANDELION M5S SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	31	1:06'26.734	1'14.311
12	38	阪口晴南	SANKI VERTEX CERUMOINGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	1:06'29.124	1'16.701
13	1	岩佐歩夢	AUTOBACS MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	31	1:06'29.473	1'17.050
14	10	Juju	HAZAMA ANDO Triple Tree SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	31	1:06'31.216	1'18.793
15	50	野村勇斗	San-Ei Gen with B-Max SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	31	1:06'31.593	1'19.170
16	28	小林利徠斗	KDDI TGMGP TGR-DC SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	1:06'34.158	1'21.735
17	7	小林可夢偉	KDDI TGMGP TGR-DC SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	1:06'54.427	1'42.004
18	12	小出峻	ThreeBond SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	30	1:06'43.975	1Lap
以上完走							
65	I. オオムラ・フラガ	PONOS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	22	42'47.245	9Laps	
16	野尻智紀	AUTOBACS MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	22	42'48.215	9Laps	
9	野中誠太	KCMG Elyse SF23	TOYOTA/TRD 01F	17	29'29.191	14Laps	
4	笹原右京	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	17	30'13.717	14Laps	
8	山下健太	KCMG Cayman SF23	TOYOTA/TRD 01F	14	24'52.778	17Laps	
64	佐藤蓮	PONOS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	12	1:05'04.787	19Laps	

ドライバーランキング (上位)

Rank.	No.	Driver	Total
1	6	太田格之進	41
2	37	S. フェネストラズ	22.5
3	1	岩佐歩夢	20.5
4	22	松下信治	16
5	3	L. ブラウニング	16
6	38	阪口晴南	15
7	39	大湯都史樹	13
8	36	坪井翔	12
9	14	福住仁嶺	12
10	19	Z. オサリバン	7

チームランキング (上位)

Rank.	Team	Total
1	VANTELIN TEAM TOM'S	34.5
2	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	34
3	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	26
4	DELIGHTWORKS RACING	16
5	REALIZE KONDO RACING	16
6	NTT docomo Business ROOKIE	12
7	TEAM MUGEN AUTOBACS	12
8	PONOS NAKAJIMA RACING	9.5
9	TEAM IMPUL	7
10	TEAM GOH	6